

**令和元年度第2回宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 情報交換会
概要**

区分・会場	県北部 ホテルサンシャイン佐沼 2階 鳳凰の間
開催日時	令和元年11月19日(火) 10:00~12:00, 13:30~15:30
出席市町村 (出席者数)	気仙沼市(19), 登米市(14), 栗原市(18), 東松島市(3), 大崎市(7) 涌谷町(3), 美里町(1), 女川町(4), 南三陸町(1) 合計 70名
アドバイザー (運営委員)	東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 宮城県サポートセンター支援事務所 所長 鈴木 守幸 氏 宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部 部長 西塚 国彦 氏
情報交換での 主な意見・内容	<p><u>テーマ：庁舎（組織）内連携の効果的な進め方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1層Co（市）と2層Co（社協）で、月1回情報交換を行っている。 ○ 行政担当者が、生活支援Coと一緒に地域に入る。 ○ 身近な担当部局との連携から広げていく。 ○ 全課が集まり勉強会を行っている。 ○ 事業を共通理解しているか、ありがたい姿を共有しているか。
	<p><u>テーマ：協議体や協議体のような話し合いの場で得られること、大変さ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お互いが思っていることの共有や気付き、ヒントが得られる。 ○ 他地域の情報が得られる。 ○ 話の中で、地域性や課題を知ることができる。 ○ 話し合いの収集がつかなくなることも。 ○ 今回の台風災害が協議体のテーマに繋がっていきこうとしている。 ○ 行政職がいることで、行政への要望を話す会になってしまう。 ○ 住民主体の意識づけに悩む。
	<p><u>テーマ：自分の地域（お宝）自慢</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 元看護師の数人が地域で活動。 ○ 雪かき専門のボランティア。 ○ 地域支え合い協力員が1番のお宝（気仙沼市）。 ○ 自然に集まる週2回のゲートボール。 ○ 老人会の集まりが無くなって、自主的なお茶のみができた。 ○ 老人クラブの方が自分達で「便利屋さん」として活動。
	<p><u>テーマ：見つけたお宝の活かし方（発表会以外）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サロンとサロンの交流、新たな何かが生まれることを期待。 ○ 広報誌で周知、情報発信。 ○ 包括、ケアマネへ情報提供、共有の場をもっている。 ○ マップにしてケアマネへも配布。 ○ 行政区へ情報を提供。 ○ 意味づけをして、活動の効果を理解してもらう活動。 ○ 見つけたお宝を、別地区訪問時に紹介。

<p>アドバイザー よりコメント</p>	<p><大坂委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協議の場で、自分たちのしていることを知ってもらうこと、他の人たちがしていることを伝えてもらうことをまず行う。その後、どのような情報が欲しいかを伝えていく。 ○ 活動していて「楽しんでいる」という話があった。それはこの事業の趣旨を理解していて、事業がうまく進んでいるということ。自分が楽しめているということは、周りの人たちも楽しめている。我々を受け入れてくれるところは、他の人も受け入れてくれる可能性もあり、気になる人を一緒に連れていけるかもしれない。そのように個に活かしていける場となれる。 <p><鈴木委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このような事業を進めるには、自分の与えられた仕事だけを行い完結するのではなく、プラットフォームで協議をする場を作っていくことが必要。 <p><西塚委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お宝を探して発表会などはしているが、組織内や専門職間への情報発信はしているだろうか。 ○ どのような地域になりたいのか、したいのか、を共有するシチュエーションが必要。 ○ 福祉というものが、介護やケアに焦点化してしまっていて、従来社協や役所が進めてきた支え合いの増進などをどこかに置き忘れていないか。それをもう一度取り戻すのがこの事業の目的だということを再確認している。 <p><県伊藤主事></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体制整備事業だと分けて考えないことで、組織全体で支え合いを進めていく。 ○ 介護予防など、大枠で捉えて活動することで横のつながりや活躍の場も広がるのではないかと。
<p>全体講評 大坂委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ この事業が始まった時とは、フェーズが変わってきている。そろそろそれを活かして色々な支援につなげていこうという時期にきている。お宝探しはこれからも続けていかなければならない。せっかく見つけたお宝を上手に繋げられていくこと。そのような事例も少しずつ出てきているので、参考にしながら進めてもらいたい。 ○ 事業を進めるのに戦略は必要。戦略の一番最初に必要なことは共有。他の人に自分たちの活動をどう分かってもらうか。 ○ この事業はホームランを狙うのではなく、内野安打でも何でも狙っていくこと、繋いでいくことが重要。 ○ 今日皆さんに話してもらっていたことは間違っていないし、事業の趣旨からもずれていない。これからも情報を出し合い共有しながら、住民の願いが叶うよう少しずつ進めていきましょう。

区分・会場	仙台 仙台合同庁舎 10階会議室
開催日時	令和元年12月17日(木) 10:00~12:00, 13:30~15:30
出席市町村 (出席者数)	仙台市(23), 塩竈市(2), 名取市(1), 多賀城市(1), 富谷市(1) 七ヶ浜町(2), 利府町(3), 大衡村(1), 色麻町(2), 南三陸町(3) 合計 39名
アドバイザー (運営委員)	東北福祉大学 教授 高橋 誠一 氏 社会福祉法人七ヶ浜町社会福祉協議会 福祉活動専門員 小野 哲 氏 社会福祉法人仙台市社会福祉協議会 事務局次長 高橋 健一 氏 宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部 部長 西塚 国彦 氏
連絡会議会員	一万人市民委員会宮城県民の会 専務理事 仲野 紀夫 氏 仙台弁護士会 高齢者・障害者の権利に関する委員会 篠塚 功照 氏 仙台市老人クラブ連合会 常務理事事務局長 二本柳 基 氏
情報交換での 主な意見・内容	<p>テーマ：庁舎（組織）内連携の効果的な進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝礼で情報を共有するようにしている。 ○ 一人で計画，行動しないようにしている。 ○ お宝発表会に市長を呼ぶことで，部長，課長クラスも芋づる式で巻き込むことができる。 ○ 法人全体で共有の場を作り，互いの仕事の理解を図っている。 <p>テーマ：協議体や協議体のような話し合いの場で得られること，大変さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あるものを協議体にしたいが，定期的に行われていないので… ○ 地域の偉い人が代表なので，解散寸前。 ○ 集まる人が固定化すると広がりにくい。 <p>テーマ：自分の地域（お宝）自慢</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スマホを使っている高齢者が多く，スマホを活用して交流ができる。 ○ 大学と連携した取り組みを行っていること。 ○ 塩竈市のお宝発表会は自慢できる（参加者が多い，活動が活発になった等）。 ○ 助け合いは昔からあり，今さら。 ○ 中学生のゴミ出しボランティア。 ○ 団地サロンが始まり，野菜売り，カーシェア，子育ての相談の場等，困ったことを自分たちで解決している。 <p>テーマ：見つけたお宝の活かし方（発表会以外）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域資源の冊子づくりを模索中。 ○ サロンガイドマップ作製→民生委員が持参し活動。 ○ ボランティア養成講座が子ども食堂設立へつながった。 ○ お宝をうまく繋げられていないのでは。お宝発表会のために活動しているところも。どう活かすか課題。 ○ 特養，老健の開放を紹介し，地域と施設が繋がった。 ○ 広報誌にてお宝を紹介（問い合わせが入ることも）。 ○ HPで紹介しているが，閲覧数が伸びない。

<p>アドバイザー よりコメント</p>	<p><高橋副委員長> ○ それぞれの地域の歴史を調べることで、地域の特徴が見えてくる。 ○ 地域に入っていると「この人に参加してもらえるといいな」等も見えてくる。</p> <p><小野委員> ○ 生活支援 Co の活動の成果物に関して、県も具体的なものは求めているわけではない。住民に寄り添い、住民に近い形で活動していくことが必要。評価や成果物にとらわれすぎないでほしい。</p> <p><高橋委員> ○ 形式的な協議体があれば、3世帯ぐらいで行われている小さな協議体があっても良い。自然発生的な協議体や任意の協議体で、若い世代の方も参加してもらうために、PTA を母体とした親父の会などに出向いて、30代、40代の世代が自分たちの地域をどう見ているのか話を聞いていくと、生活支援 Co のスキルも上がっていく。</p> <p><西塚委員> ○ 大きな都市同士での情報交換や、塩竈市の浦戸地区と、気仙沼市の大島地区とで情報交換会を行うなど、似た地域間で情報交換をすることも良いかもしれない。 ○ 庁舎内での連携はまだ難しい。住民の方々が住みやすい地域に変えていくということを進めていくか、庁舎内、関係者間で共有する機会にもアドバイザー派遣も活用してもらいたい。</p> <p><県伊藤主事> ○ 行政がやりたいことを押し付けるのではなく、住民から意見を聞いていくことが協議体では一番大切な部分だと思う。</p>
<p>連絡会議会員 よりコメント</p>	<p><仙台弁護士会 篠塚氏> ○ 皆さん住民の方が主体だということを意識して、色々な形で取り組まれている。多くの悩みも抱えているようだが、一方ですごく良い形で地域との関わりが持っている地域もあるよう。 ○ これからもより良い地域づくりをお願いしたいし、我々も何かの形で関わっていったらと考えている。</p> <p><仙台市老人クラブ連合会 二本柳氏> ○ 皆さん苦労しながら地域に入っているのが分かった。 ○ 老人クラブは地域で支え合い、独り暮らし高齢者のサポート、サロン活動などの友愛活動を行ってきている。地域包括ケアシステムの中で我々がどういう役割を果たせるのか、まだ詰めきれていないが、各地域で地域包括支援センターや社協に伺い協力をお願いしているところ。この事業の中でどういう役割を担っているか考えていきたい。 ○ 老人クラブの会員もどんどん高齢化しているが、持っている力を発揮したいという思いでいる会員も多くいるため、一緒に地域づくりに取り組んでいきたい。</p> <p><一万人市民委員会 仲野氏> ○ 県内に100人ほど会員がいる。どのように支え合いを行っていくかなどを話し合うため、県全域と地域ごとでの交流会を始めた。今回は3つの地域包括支援センターに協力いただき開催した。今後も協力をお願いしたい。</p>
<p>全体講評 高橋副委員長</p>	<p>○ できていないところを見ていくと、なかなか元気は出ない。できていることが素晴らしいことだと住民に伝えていくこと。そうすることで色々なものが見えてくる。</p>

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">○ 形としてはできていなくても、自主的に集まっているところは多くあるはず。そこに目を向けて活動してもらいたい。○ 2025年はずぐそこなので、急がなければならないが、1年2年でできる事業ではないことも確か。○ 地域づくりを行う上で必要な連携は、福祉分野はやりやすいと思う。地域のベースの部分で連携できなければ、行政なども難しいはず。縦割りの仕組みは簡単には変えられない。そこに地域が横串を入れていければ良い。○ 地域に力がついたら、高齢者の問題だけではなく、子供の問題、引きこもり問題、8050問題にも応用していける。国は全世代型社会保障と言っているが、あらゆるところにそのような問題がある社会になってしまったということ。そのベースに地域がある。○ 今日得た話の中から、参考になりそうなものは是非持ち帰って実践してもらいたい。 |
|--|---|

圏域・会場	県南部 大河原合同庁舎 別館第2会議室
開催日時	令和元年12月20日(金) 10:00~12:00, 13:30~15:30
出席市町村 (出席者数)	白石市(1), 名取市(4), 角田市(1), 岩沼市(4), 蔵王町(7) セツ宿町(2), 大河原町(4), 村田町(3), 柴田町(4), 山元町(4) 合計 34名
アドバイザー (運営委員)	東北福祉大学 教授 高橋 誠一 氏 仙台白百合女子大学 准教授 志水 田鶴子氏 宮城県サポートセンター支援事務所 所長 鈴木 守幸 氏 宮城県サポートセンター支援事務所 コーディネーター 真壁 さおり氏 公益財団法人さわやか福祉財団 インストラクター 渡邊 典子 氏
連絡会議会員	宮城県ケアマネジャー協会 副会長 清野 澄子 氏
情報交換での 主な意見・内容	<p>テーマ：庁舎（組織）内連携の効果的な進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援 Co と市職員での月1回の話し合い。 ○ 社協、町事業担当者、包括職員、1層 Co、2層 Co の5者で月1回情報交換会を開催。 ○ 役場と社協の意見交換の場に県サポセンが入り進行役をしている。外部の人に入ってもらふこと。 ○ 協議体に、まちづくり交流課と生涯学習課にオブザーバー参加してもらっている。 <p>テーマ：協議体や協議体のような話し合いの場で得られること、大変さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の知らない活動があることを発見できる。 ○ 始まりはカチツとしていたが、今はゆるい参加者で構成。とても良い関係で、情報交換も上手にできている。 ○ 議題をどうするか考えるのが大変。 <p>テーマ：自分の地域（お宝）自慢</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市や社協との関係が良好なので恵まれている。 ○ 高齢者サロンが40地区ある。ボランティアも一生懸命。 ○ 自宅の庭を開放（フラワーガーデン）。 ○ クリスマスに漬物を持ち寄って集まっている。 ○ 移動販売。自然に集まり顔なじみになっていく。 ○ 85歳男性、配食サービスを無料で実施。個人の活動から地域の活動になっている。 ○ デイ職員が、送迎に合わせ雪かきをしている。 ○ ウォーキングを通して仲良くなり、会が発足。野球観戦に行ったり、お揃いの帽子をかぶり仲間意識が高い。安否確認にもつながっている。 ○ 子ども食堂が2か所ある。 ○ 結がまだ残っている。 ○ 寺カフェ。 ○ 地元以外の外から来た人の新興住宅の高齢者サロン。 ○ 住民主体の認知症カフェ。

	<p><u>テーマ：見つけたお宝の活かし方（発表会以外）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のお宝マップを作っている。 ○ 達人カード。 ○ 住民から、お宝を周りに広めてほしいと言われ、Co が地域に出て紹介している。 ○ 広報誌，見学会，マップ ○ 地域資源情報をファイリングしている。毎月情報を更新し，1層 Co から2層 Co へメールでお知らせ。 ○ 駅構内の通路に大きなポスターとして掲示。
<p>アドバイザー よりコメント</p>	<p><高橋副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ仙南地域でも，地区によって特徴が全然違うもの。地域に根差した人もいれば，根差していない人もいる。 ○ 地区によっては住民の生活格差もある。その方々が高齢になった際にどう繋がりを持って生活できるか。 ○ 今の高齢者はまだ自然と繋がり合える。これから高齢者になる方々は，自己主張が強く，なかなかつながり合うことが難しいかもしれない。そのような時代に入ってきている。無理やり繋がらせることはでいなので，皆で話し合いながら，繋がり合うことの大切さを伝えていかなければならない。そのためにも話し合いの場があることが重要。 <p><鈴木委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トップマネジャーの捉え方が違っていると，この事業を進めづらくなる。 ○ 生活支援コーディネーターは，ジェネラリストとして，当たり前のことを当たり前としてとらえられることが大切である。 <p><真壁委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協議体を効率的に進めていくなかで，近い関係の人たちが協議体にいることで，言いづらいこともでてくる。行政職は，立場的に厳しくなる場面も。協議が必要な部分には外部の人がファシリテーターとして入ることも必要。 <p><渡辺委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ナチュラルな部分をしっかりと掘り起こせているので，それをどう継続していくか，前向きに進めていくことが協議体や生活支援コーディネーターの大切な役割になる。 ○ 10年，20年先を見据えて，今必要なことをじっくりと考えて進めていくことが必要。
<p>連絡協議会 員よりコメント</p>	<p><宮城県ケアマネ協会 清野氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回情報交換会に参加することで，地域の実情が少し分かった。皆さんの活動を見える化していただき，ケアマネジャーに情報発信してもらおうとマネジメントに繋がられる。今はまだ見えていない。地域ケア会議にもどんどん参加してもらいたい。 ○ そこで暮らしている本人を中心に，ヒューマンネットワークを築くことが大切。
<p>全体講評 高橋副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ あるものを伝えていくことが社会資源の開発になる。 ○ 元気なうちから今の繋がりも続けてもらい，本当に困ったときに繋いでいくことが必要になってくる。そのためには専門職との繋がりも必要になってくる。そのような土台作りを今のうちに行っていくことが重要。 ○ これらの大切さを生活支援コーディネーターだけが知っているのはいけない。広く伝えていくことが求められている。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">○ 地域づくりがあつて、介護保険サービスがあることで、サービスが生きてくる。サービスを基本にして、地域づくりをしていくのはいけない。○ 皆さん日ごろ活動しているから色々な意見が出てきている。そこは事業が始まった頃とは大きく違う。参考にしたいと感じたことを是非持ち帰って実践してもらい、またこのような場でそれを広めてもらいたい。 |
|--|--|